

よくある質問 Q&A

プラスチック資源・金属資源等の脱炭素型有効活用設備導入促進事業 (リチウムイオン電池リサイクル設備導入事業)

これまで、事業者の方から多く寄せられた質問を掲載しております。これ以外の質問は、当財団までお問い合わせください。

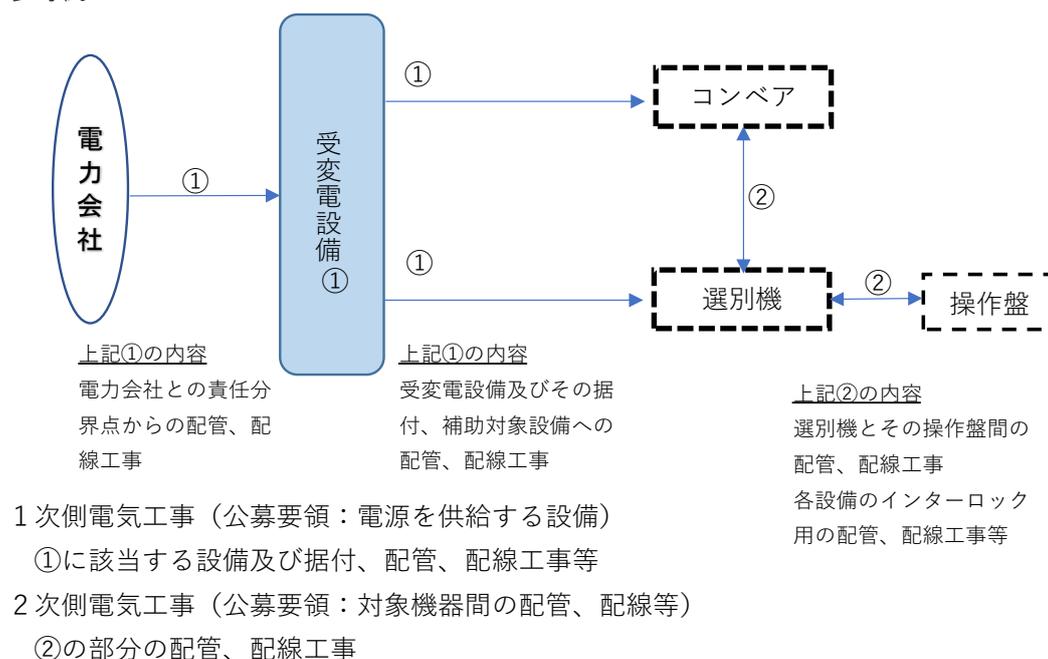
Q1 電源を供給する設備とはどのようなものか。

A1 電力会社等から電気を受けるための受変電設備、各設備へ配電するための配電設備、及び配電設備から各補助対象設備への配線・配管工事等のことを言います。それら受変電設備等においては、新設、増設の場合のみで、改修、改造は含みません。

また、受変電設備、配電設備の補助対象経費の算出において、補助対象内外が共用する設備は設備容量按分で算出します。なお、将来の設備増設などを考慮した過剰分及び予備等は補助対象外とします。

なお、公募要領の様式3に記載する一次側電源工事費及び二次側電源工事費については、下記の範囲を参考に積算してください。

参考例



Q4 エクセルシートで入力する場合において、入力欄にある代替率とは何か

A4 製品にする場合に、新材に比べると、リサイクル材の使用量（重量）が多くなります。

$$\text{代替率} = \text{新材（重量）} / \text{リサイクル材（重量）} \dots\dots①$$

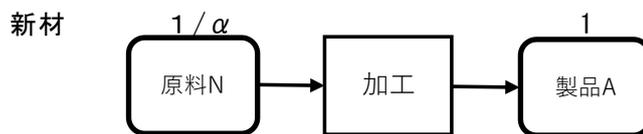
この場合、歩留についてもリサイクル材の方が悪くなることから

新材Nから製品Aへの歩留 α 、リサイクル材Mから製品Aへの歩留 β を使って

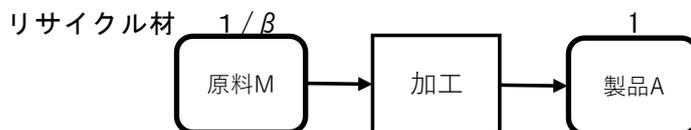
$$\text{代替率} = \beta / \alpha \quad \text{となります。}$$

したがって、CO2削減効果の計算には、リサイクル材を新材に換算し、その重量に代替率を乗じることになります。

代替率について



新材Nから製品Aへの歩留 α とする。
製品Aを1 t 作成するには $1 / \alpha$ の原料が必要



リサイクル材Mから製品Aへの歩留 β とする。
製品Aを1 t 作成するには $1 / \beta$ の原料が必要

製品A 1 t 製作では、リサイクル材Mは新材Nより多く消費する。
代替率 $s = \text{新材N（重量）} / \text{リサイクル材M（重量）} \dots\dots①$

$$\text{代替率 } s = (1 / \alpha) / (1 / \beta) = \beta / \alpha \leq 1 \quad (\alpha > \beta) \dots\dots②$$

新材Nの歩留 α リサイクル材の歩留 β

$$\text{新材N（重量）} = \text{リサイクル材M（重量）} \times \text{代替率 } s \dots\dots③$$

∴リサイクル材を新材に換算する場合はその重量に代替率を乗じることにする。